

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	海南市立大東小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	日本と和歌山の魅力を実感！～『和』体験カリキュラム～

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1. 活動・研究の目的（ねらい）

急速なデジタル化や国際化の進歩により、日本特有の良さに実際に触れたり経験したりする機会が失われつつあり、我が国日本の伝統文化に対する子どもたちの愛着心が薄れていかないかとの懸念がある。

特に約3年間に渡るコロナ禍により、食に、また人と関わる活動の制限は深刻で、様々な体験活動が激減した。そんな中、本校はじめ海南市内の小学校の修学旅行は和歌山県内での実施となったが、逆にそれがふるさと和歌山県の魅力を改めて感じ、自慢や誇りに思う気持ちを強める機会となった。

そこで、あえて積極的に『和』体験カリキュラムを展開することにより、『和』風や『和』式の、また『和』和歌山県の魅力を実感できる機会を充実させ、日本特有の伝統や和歌山県自慢の歴史や自然、また食の魅力を改めて感じることで、ふるさと日本や和歌山への愛着を深めることを目的とした。そしてその延長上に、次時代の担い手として、ふるさと和歌山、また日本のよき歴史や伝統、文化を受け継ぐとともに、恒久の平和とさらなる発展を願い、自ら寄与していこうとする人材の育成につながるよう期待した。

さらには、実施方法において仲間との『和』の視点を工夫することで、またみんなで『和』むことの心地よさや楽しさ、喜びを分かち合うことで、子ども同士の共感を大切に、そして集団としての絆を強めたいと考えた。

#### 2. 活動内容

##### （1）和菓子作り体験の実施 対象：5・6年生 教科：家庭科

普段の子どもたちは、和菓子を口にすることがほとんどなく、そもそも和菓子がどんなものを指すのかを知らない子どももいる。そこで、和歌山市から和菓子屋「紫香庵」の須賀さんを招聘し、食するだけではなく、実際に作る過程から教えていただく体験とした。工夫や技に感嘆しながら、味や彩りなど和菓子職人の繊細なこだわりを含め、食べていただける方を大切に思うおもてなしの心を実感できた。特に、その味わいに対する子どもたちの心からの賞賛の声が何より貴重な体験となった証である。



##### （2）抹茶体験の実施 対象：5・6年生 教科：家庭科

ケーキやアイスクリームなど、抹茶味を好む子どもは意外と多い。しかし、抹茶そのものを口にすることはほとんどなく、茶道となると親しみを覚える児童は全くないので現状である。今回は、他校や施設、サークル等々で普段から茶道教室の講師をしている梅本先生をお招きし、実際に飲む側としてだけでなく、出す側としての体験をさせていただくとともに、器や生け花に関する説明までしていただき、おもてなしの心を大切にする日本独特の伝統文化や奥ゆかしさを幅広く学び体感することができた。



### (3) 醤油体験の実施

対象：5・6年生 教科：総合

日本食の代表と言えば、寿司。また調味料と言えば醤油。そのうち、たまり醤油に関しては、和歌山県の由良や湯浅地方が起源とされる。電車を利用して湯浅醤油の蔵を訪れ、そうした歴史と、また醤油づくりの苦労やこだわり、さらには普及に向けた取り組みなどについて体験的に学ぶことができた。



(2 ページ)

### (4) 百人一首体験の実施

対象：5・6年生 教科：国語科

俳句や和歌に始まり落語や能、狂言、歌舞伎などなど、体験させてやりたい日本の伝統的な文化や芸能は数多ある。ここでは、最も身近な短歌の世界に焦点を当て、小倉百人一首の、しかもはじめの10首を用いての、簡易カルタ取りを行った。和歌に込められた詠み人の想い、感受性、情景といった深いところまでは迫っていないが、みんなで楽しく親しむことができた。



### (5) 邦楽鑑賞&演奏体験の実施

対象：全校児童 教科：音楽科

地元和歌山県内ではふさわしい方が見つからなかったこともあり、大阪大学邦楽部銀簫会の皆さんに来校いただき、箏、三弦、尺八による邦楽演奏を全校児童と希望の保護者が鑑賞した。当日は14名が来校し、小学生にも人気の「パプリカ」など計5曲を聴かせていただき、その後5・6年生のみではあるが、箏演奏体験として実際に箏の音を出し各自「さくら」のワンフレーズを奏することができた。間近で生の邦楽演奏に触れることができ、邦楽の音の美しさや奥深い味わいを全児童で感じ合うことができた。



### (6) その他の体験活動の実施

教科：体育・図工・総合・・・

金山寺味噌づくり、みかん摘果・収穫体験、田植え・稲刈り・脱穀体験、漆器体験等々、和体験カリキュラムとして位置づけられる体験活動は様々あった。特に今年度『和』体験を意識して実施した内容は、運動会における竹を用いた演舞と、図工における浮世絵や和を意識した版画体験などがある。いずれも楽しみながら和の魅力に迫ることができた。



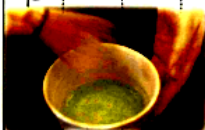
## 3、子どもたちへの効果 (成果・課題)

『和』体験毎に感想を書き、子どもたちの思いの深まりや考えの広がりを蓄積していった。右は、抹茶体験時の感想であるが、「おもてなしの心」という言葉が文中に3度使われているほか、「道具や食器などにも、日本と和歌山の魅力がたくさんつまっていることがわかりました。」という記述が、子どもたちの学びを象徴している。期待通り、『和』体験を通して、子どもたちは単にその時々楽しさを実感するにとどまらず、携わってくださる人の願いや想いに心を寄せ、さらには日本や和歌山の魅力を実感し、誇りに思う気持ちを高めている様子が、成果としてうかがえる。

抹茶体験のご感想をありがとうございます。このように貴重な体験をご提供いただいたことに感謝します。

具々食器なども、日本と和歌山の魅力が伝わって、おまんぷま、いろいろこの分りました。このように貴重な体験をご提供いただいたことに感謝します。

具々食器なども、日本と和歌山の魅力が伝わって、おまんぷま、いろいろこの分りました。このように貴重な体験をご提供いただいたことに感謝します。



日本と和歌山の魅力を実感！『和』体験カリキュラム  
茶道（抹茶）を体験して・・・

課題は、今のせつかくの体験が、伝統文化をはじめとする日本や和歌山の魅力の一部を、仲間と共に様々な満喫したといった単なる良き思い出にとどまらず、魅力を感じた良さについては、ぜひ今後も大切にしたり継承したりする人生を過ごしていけるかどうかである。実践的な体験活動を重視した取り組みが、子どもたち1人ひとりの長い将来、生き様に好影響をもたらすと期待したい。